

傍聴席からひとこと

No. 47

「傍聴しているつもり」と



佐藤 鍊太郎 さん
山田・77歳

たびたび議会を傍聴して思うことは、同じような質問が重複して行われている。回答するほうでは、また同じ質問かと思うかもしれない。あまりにも同じような質問が多いときは、質問事項を受けるほうで精査してもらいたい。前は大雪りばあねつとの問題でたくさんの方が質問に立ったが、あの時は町長はじめ、副町長、総務課長は大変だったと思う。このことは山田町の大問題であり、町民の方も新聞、テレビで報道されてびっくりしたと思う。

もう少し早く町から職員を派遣していれば、こんなに無駄な金を使わずに済んだのではないかと思う。我々は町とか県からお金をもらうには、事前に人件費がいくら、こういうものを買いたい、このよう設備がしたいとかという書類を出して、それから町長、副町長、課長の印が押されて決裁するもの思っていた。それが大雪りばあねつの場合、丸投げのように県だか町だか分からないが、好きなように使ってくださいと言わんばかりに何億円もの金が出たということが町民としては納得がいけない部分である。

今回傍聴して感じたことは、質問の中で緊急医療の受け入れが平日は午後5時まで、土曜日、日曜日は受け付けないということ聞き、町民として、なんとか時間外でも受け入れてもらいたいと思う。これは県医療局の方針だと思うが、このことについては県と話し合い、善処していただきたいと思う。三鉄が通っても、学生の定期代が2万円になるという。町ではこのことに補助する考えはないのかという質問に対し、町のほうではいくら補助するように対処したいということであった。学生たちはバスの定期券8千円のほうへ流れるのではないかと思う。山田高校の志願数にも関わってくるのであるから、よく考えたほうがよいと思う。災害公営住宅の保証人については宮古、山田、大槌に居住する方で2人ということであったが、町長さんは要件緩和のため、保証人は1名とし、居住範囲も県内まで拡大することを検討したいということであり、入居者にとっては大変よいことであり、ぜひそうなるようにお願いしたい。

在職11年以上表彰
田村剛一議員

2月5日、田村剛一議員が岩手県町村議会議長会から表彰を受けました。



表彰を受けた田村議員

町村議会議員として11年以上にわたり在職したことによる表彰です。

◆議会を傍聴しませんか
3月定例会の傍聴者数は、延べ22人でした。
次回の定例会は6月中旬に開会予定です。
傍聴の手続は簡単です。ぜひお気軽にお越しください。

あ
と
が
き

▼3月11日、約350人が参列し、東日本大震災・大津波山田町犠牲者5周年追悼式が執り行われました▼あの未曾有の大災害、東日本大震災から5年の歳月が経ちました。改めて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆さまに対し、心よりお見舞いを申し上げます▼28年度は5年後の復興のゴールを見据えた折り返し点となります。高台に住宅が建ち始め、災害公営住宅の整備も着々と進められ、夏ごろには地域医療の核となる県立山田病院も完成予定です▼今後においても町当局と議論を重ねながら、さらなる復興の加速化を図り、1日でも早い復興完遂を目指し力を注いでまいりたいと思っております。皆さまのご協力をお願い申し上げます。(佐藤)

◆発行責任者

議長 昆 暉 雄

◆議会広報編集特別委員会

- 委員長 吉川 淑子
- 副委員長 菊地 光明
- 委員 佐藤 克典
- 委員 田村 賢也
- 委員 関木 清貴